

サッカーもグリーン？

－電力会社とサッカークラブの協同－

株式会社グッドバンカー  
リサーチチーム

11月初めに、英国・マンチェスターでスタジアムビジネスの国際サミットが開催され、世界中の革新的なプロジェクトが発表されました。当社からもアナリストが参加しました。

昨今、スマートシティやコンパクトシティといった街づくりと密接な関係にあるスタジアムやアリーナの建設や運営が、地域社会の経済、環境、暮らしに大きく貢献する”プロフィットセンター”の役割を持つことで注目されています。当社では、SRIの観点からスタジアムの資金調達に注目しています。今回のサミットでは環境保護に重点を置く異色のプロジェクトがスポットライトを浴びました。それが「エコトリシティ」とサッカークラブ、「フォレスト・グリーン・ローヴァーズFC (FGR)」がめざす「エコパーク構想」です。

「エコトリシティ」は、イングランド南西部のグロスターシャーに拠点を置く自然エネルギーの電力会社です。主に一般の顧客に対して自社発電（風力）の電力を供給しており、そのカスタマー数は約19万人になります。

2010年、「エコトリシティ」はグロスターシャーのサッカークラブであるFGRの株式の98%を取得し、実質的なオーナーとなりました。1889年に設立された同クラブは（2016年11月24日）現在、5部リーグに相当するナショナルリーグの首位を独走しています。今後予想される昇格と成長に伴い、本拠地のスタジアムの観戦環境の改善は不可欠ですが、「エコトリシティ」とFGRは新スタジアムの建設と周辺地域一帯をグリーンテクノロジー&スポーツ特区とする「エコパーク構想」を打ち出したのです。

両者はエコパークで、自然エネルギー源の電力供給、持続可能なサプライチェーン（物流・交通）の構築、周辺森林および湿地帯の保護管理による生物多様性の確立をめざしています。また、環境とスポーツに主眼を置くことで、地域コミュニティのみならず、欧州屈指の「環境教育と健康促進のセンター」となることをねらっています。

経済発展を専門とするコンサルタント会社の「リジェネリス社」が国家統計局のデータを基に調査したところ、エコパーク構想の実現は、グロスターシャー地域の地方経済に2億5860万ドルの粗付加価値をもたらす、科学技術分野の研究職や総務職など、約4,000人の雇用を生み出すとの試算が出てきました。

サッカーとエコパークによる新たな地域社会のデザイン、FGRの躍進に世界が注目しています。

参考資料：The Stadium Business Design & Development Summit 2016 配布資料